

# 社 会 資 本 総 合 整 備 計 画

第3期巖原城下町地区都市再生整備計画(第3回変更)

平 成 3 1 年 3 月

長 崎 県 対 馬 市

(参考様式2) 社会資本総合整備計画 (社会資本整備総合交付金)

令和2年8月19日

計画の名称										第3期厳原城下町地区都市再生整備計画										重点配分対象の該当			
計画の期間										平成27年度 ~ 令和3年度 (7年間)										交付対象		対馬市	
計画の目標										「市民・観光客の交流拠点」としての中心市街地の再生及び安心な街づくり ・市民の快適な暮らしの醸成 ・高質空間を形成し観光客の回遊を誘導する。													
計画の成果目標 (定量的指標)										・市民や観光客が厳原城下町地区の生活空間の安心感・快適性の不満度を事前と事後をアンケート調査により比較し88%を (H26) をR3に60%に引き下げる。 ・市民や観光客が厳原城下町地区の景観・歴史文化史跡の状況の不満度を事前と事後をアンケート調査により比較し80%を (H26) をR3に60%に引き下げる。 ・横町線を中心とし、往来する歩行者数を調査し、回遊性の向上を検証し、従前の648人 (H26) をR3までに900人に引き上げる。 ・観光客の交流拠点として対馬市の歴史文化に触れ、また学ぶことによる交流人口の増加を図る。 ・博物館を整備することにより、その周辺の公共施設 (観光情報館ふれあい処つしま) の利用人数の増加を図る。													
定量的指標の定義及び算定式										定量的指標の現況値及び目標値 当初現況値 (H26)      中間目標値      最終目標値 (R3)										備考			
市街地の安心感・快適性の不満度をアンケート調査により実施する。										88%										-		60%	
市街地の景観・歴史文化史跡整備の不満度をアンケート調査により実施する。										80%										-		60%	
横町線等を通過する歩行者数を調査する。										648人/日										-		900人/日	
博物館の来館者数を調査する。										80,600人/年										-		83,600人/年	
観光情報館ふれあい処つしまの利用者数を調査する。										13,970人/年										-		15,000人/年	
全体事業費										合計 (A+B+C+D)      2,681.0百万円      A      2,681.0百万円      B      0.0百万円      C      0.0百万円      D      0.0百万円										効果促進事業費の割合 (A (提案分) + C / (A+B+C+D))		23.1%	
交付対象事業																							
A 基幹事業																							
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	要素となる事業名 (事業箇所)	事業内容 (延長・面積等)	市町村名	事業実施期間 (年度)							全体事業費 (百万円)	費用便益比	個別施設計画策定状況	備考				
1-A-1	都市再生	一般	対馬市	直接	対馬市	第3期厳原城下町地区都市再生整備計画事業	40ha	対馬市	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	2,681.0							
										合計							2,681.0						
B 関連社会資本整備事業 (該当なし)																							
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	要素となる事業名	事業内容 (延長・面積等)	市町村名	事業実施期間 (年度)							全体事業費 (百万円)	費用便益比	個別施設計画策定状況	備考				
										合計							0						
C 効果促進事業 (該当なし)																							
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	要素となる事業名	事業内容	市町村名	事業実施期間 (年度)							全体事業費 (百万円)	備考						
										合計							0						
番号	一体的に実施することにより期待される効果																備考						
D 社会資本整備円滑化地籍整備事業 (該当なし)																							
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	要素となる事業名 (事業箇所)	事業内容 (面積等)	市町村名	事業実施期間 (年度)							全体事業費 (百万円)	備考						
										合計													
番号	一体的に実施することにより期待される効果																備考						

交付金の執行状況

(単位:百万円)

	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3
配分額 (a)	12.8	285.5	221.4	247.5	304.8	6.1	
計画別流用 増△減額 (b)	0	0	0	0	△ 80	0	
交付額 (c=a+b)	12.8	285.5	221.4	247.5	224.8	6.1	
前年度からの繰越額 (d)	0	0	203.9	169.4	199.0	211.8	
支払済額 (e)	12.8	81.6	255.9	217.9	212.0		
翌年度繰越額 (f)	0	203.9	169.4	199.0	211.8		
うち未契約繰越額 (g)	0	29.9	42.2	29.3	191.4		
不用額 (h = c+d-e-f)	0	0	0	0	0		
未契約繰越+不用率 (h = (g+h)/(c+d))	0.0%	10.5%	9.92%	7.03%	45.16%	0.00%	
未契約繰越+不用率が10%を超えている 場合その理由	-	事業費に対する 用地補償費が約 90%であり補正も 合わせ契約が年 度末となったた め					

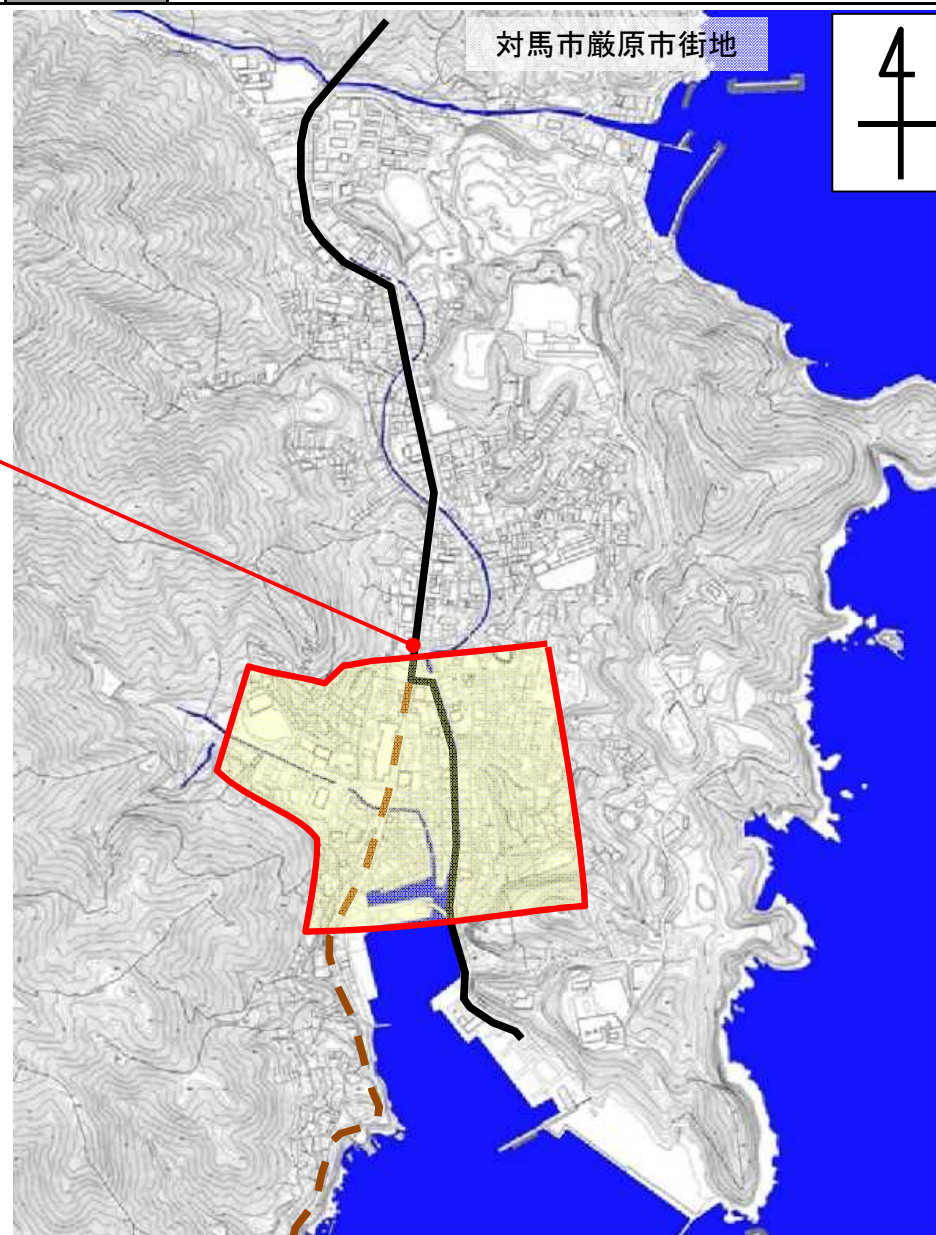
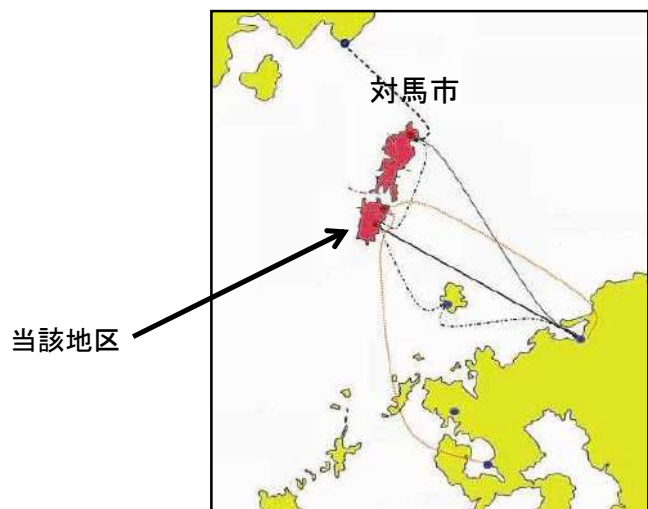
※ 平成26年度以降の各年度の決算額を記載。

(様式3) 市街地整備

計画の名称	第3期厳原城下町地区都市再生整備計画		
計画の期間	平成27年度 ~ 令和3年度 (7年間)	交付対象	対馬市

第3期厳原城下町地区都市再生整備計画

区域面積 40ha



# 都市再生整備計画(第6回変更)

だい き いづ はらじょうかまち ち く  
第3期厳原城下町地区

ながさき つしまし  
長崎県 対馬市

令和2年8月

事業名	確認
都市構造再編集中支援事業	<input type="checkbox"/>
都市再生整備計画事業	<input checked="" type="checkbox"/>
まちなかウォークアブル推進事業	<input type="checkbox"/>

## 目標及び計画期間

様式(1)-②

都道府県名	長崎県	市町村名	対馬市	地区名	第3期厳原城下町地区	面積	40	ha
-------	-----	------	-----	-----	------------	----	----	----

計画期間	平成 27 年度 ~ 令和 3 年度	交付期間	平成 27 年度 ~ 令和 3 年度
------	--------------------	------	--------------------

### 目標

- 「市民・観光客の交流拠点」としての中心市街地の再生及び安心な街づくり
- ・市民の快適な暮らしの醸成
- ・高質空間を形成し観光客の回遊を誘導する

### 目標設定の根拠

#### まちづくりの経緯及び現況

当地区は、九州本土と朝鮮半島の間に浮かぶ国境の島「対馬」の南部に位置している。本事業の対象地である対馬市の厳原地区中心市街地は、古くから朝鮮貿易の港町としてまちが形成され、藩主宗家入島後は10万石の城下町として九州でも屈指の都市が形成された。

明治以降は、国や県の行政機関、交通ターミナル等が隣立し、また昭和中期には漁業基地として賑わいを呈し、長年対馬の中心として栄えた。H14年4月から、韓国釜山市と厳原港の間で航路が開設され、韓国からの観光客の入り込み客数が増加している。

当地域の周辺部に対するナショナルミニアムの達成に向けた方策を、16年ほど前からポテンシャルの高い当地域に対する地域資源の発現に転換し、「平成の城下町プロジェクト」に取り組み、発現事業をとおして住民自身の誇りの醸成と共に地域力を高めることに取り組んできた。

特に、3つの国指定文化財資源(藩主の菩提寺「万松院」・江戸時代初期の居城「金石城」・秀吉の朝鮮出兵の際の出城「清水山城」)が連担している区域を中核ゾーンとして、大正年間に取り壊された大手門の再建や崩壊の危機にあった遺跡の修復や埋没していた池などの復元に取り組んできた。

その他のゾーンでは、道路修景の一環として城下町の風情を醸し出す意匠による街路灯の設置や武道場の再建と藩校の門の復元に取り組んだ。更にこれらの方向性を受け県の出先機関の敷地内石塀や長屋門の修復、職員宿舎や警察庁舎の建築の際、意匠への反映などに取り組んできた。

しかしながら、1600年代後半に形成された城下町としての町割りを残していくことと反比例して、中心市街地内における高齢化対策や自動車社会への対応が遅れ、郊外の隣接地域への大型店舗の立地が急速に進み、まちの活気が急速に失われつつある厳しい状態に曝されている。

その対応として、今屋敷地区第一種市街地再開発事業や都市計画道路厳原豆鼓美津島線(大町通り)整備事業あるいは、中心市街地に隣接する中村地区では、地区内に残る武家屋敷など当時の貴重な財産を生かした街並み環境整備事業を実施し、滞っていた市街地整備を活発なものとした。

また、その流れを継承し発展させるため、中心商業エリアと文化史跡エリア(中心市街地の西側)を融合させる場となり、あらゆる交流のエントランス機能を有した総合窓口を設置し、国際交流拠点施設となる特色のある新しい市街地整備を実施し、歴史・文化遺産の整備集大成として、「対馬歴史海道博物館(仮称)」の整備を計画している。

他方においては、本市は南北に長い地形であり、全市的に文化・経済・生活・医療・防災などの各方面で公平で均一な行政サービスが求められている。このため、高度情報化社会に対応した情報基盤施設整備事業に着手し、防災・保健衛生・介護認定・教育などの分野に於いて、徐々にではあるが広域的な協働関係と効率的な住民サービスを提供している。

これらを平成17年度から都市再生整備計画事業により「厳原城下町地区」としてハード・ソフト両面から整備を進めているものの、市街地の生活基盤イコール観光ルートの整備に欠けるものがあり、市民・観光客のための快適な空間形成の成就まで至っていないのが現状である。

また同様に、市民の安心安全のランドマーク的な施設や公共交通網・観光ルートのシステム化した情報配信が形作られておらず、都市空間として一定の充足感はあるものの市民生活・観光客への快適な市街地形成に基軸を移せば、欠けたものを感じる事となる。

これらを踏まえ、本整備事業において、真の交流拠点、安心感があり歴史文化にあふれる快適な居住環境・観光基盤の醸成を図り、都市再生を目指すとともに離島都市として産業の連携や全ての資源を有効に活用し、人・物を網羅した循環型社会整備を進めて行く。

#### 課題

・人口減少・高齢化社会に於いて市民生活の安定化、都市経営のための経済活力の確保のためには中心市街地の活性化が都市整備上の最大かつ喫緊の課題であることから、中心市街地が地域生活の中心となるような役割を確立する必要がある。

・歴史的観光資源(宗家古文書や史跡)を活用し、観光交流の差別化を図るとともに対馬の「自然・歴史・文化交流」に関する情報発信や観光窓口の一元化が必要である。

・市が目指す今後の重要な経済基盤が、産業や自然と密接な繋がりを持ちながら交流人口の更なる拡大を図ることであり、この経済効果を中心市街地で受け止め、地域振興の核となる取り組みは必要である。

・当地区内の道路修景は歴史的に形成された特徴があり、地区形成のポイントであるが、歩道が狭く、交通安全面の問題が多いことから市民や観光客が安全に回遊し、ゆっくと時間消費が出来るよう、面的意識をもった道づくりが必要である。

・離島の都市であるため、市民が安心また快適な生活が営めるよう生活基盤の整備保全、災害時や緊急時に対応可能な施設整備が必要である。

#### 将来ビジョン(中長期)

◎対馬市建設計画に於いて、当該地区は対馬市の中心市街地として商業集積の高度化・魅力向上及び歴史性を活かした街並み空間と位置付けられており、今後更に、対馬における賑わいづくりを先導するゾーンとして整備を進める。

◎都市計画マスタープラン中、都市づくりの基本理念において、

○日韓交流の拠点としての連携・交流を育む、活力と賑わいのある都市づくり ○都市的な生活利便性の向上と歴史的な町並みとが調和した都市づくり ○豊かな自然や特有の生態系を守り、継承する都市づくり

の3項目が掲げられている。

◎高度情報化を推進し、緊急告知放送や自主番組放送の提供により地区内の防災・防犯の強化を図り、市民と観光客が安全で訪れやすいまちづくりを進め、インターネットの活用により対馬の情報発信を促進し、観光客の誘致や地場産品の販路拡大に繋げる。

◎観光客が時間をゆっくり消費できるまちづくりに努め、観光産業の更なる発展に繋げる。また、EM菌の有効活用の啓発に取り組み、中心市街地を流れる河川や海の浄化に努め、潤いある美しいまちづくりの醸成を図る。

◎万松院から金石城、清水山城、歴史民俗資料館を含んだ史跡群を観光資源として再生を図り、厳原城下町として相応しいまちづくりの交流拠点を目指した整備を進める。

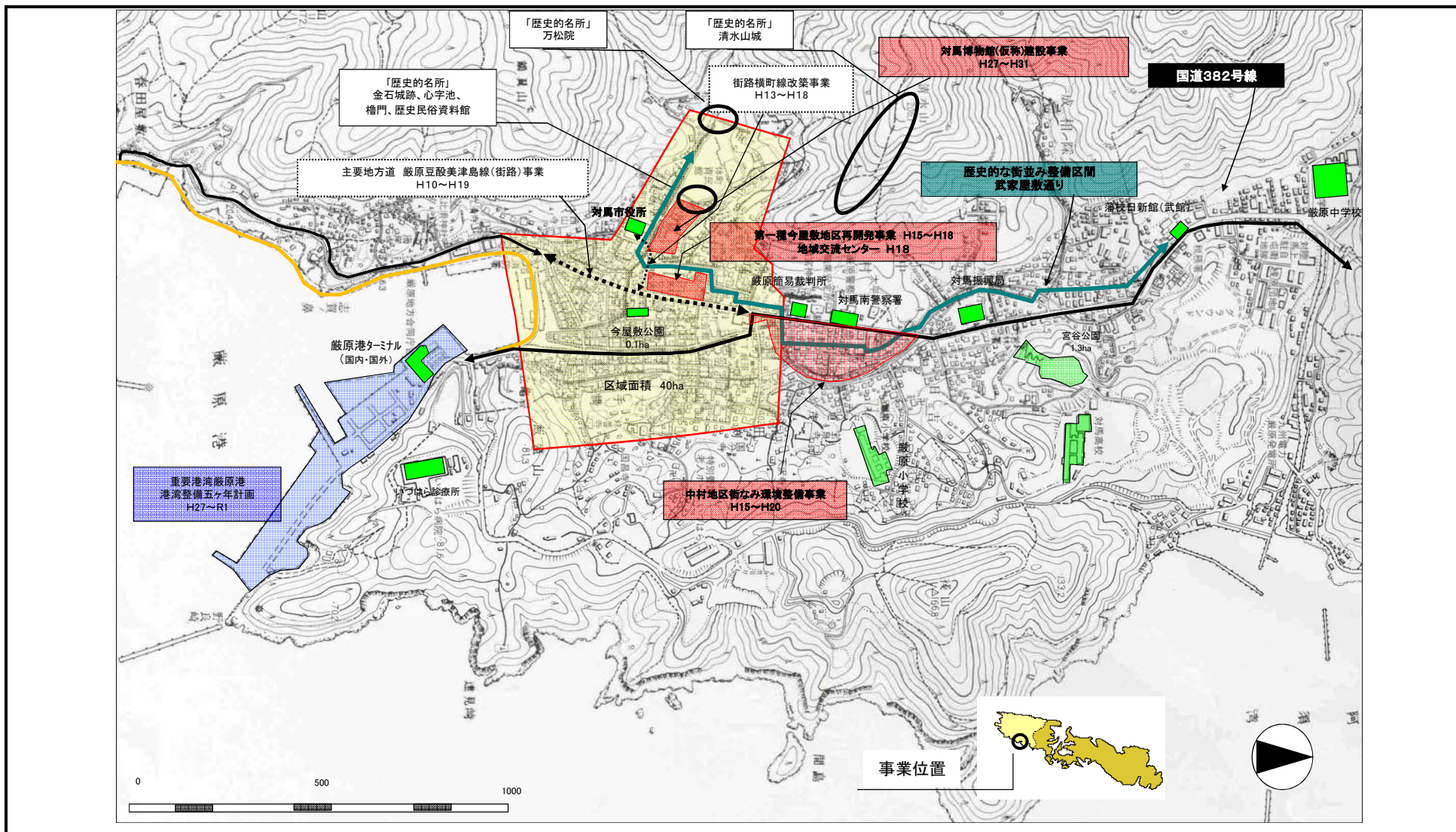
目標を定量化する指標							
指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	基準年度	目標値	目標年度
地区内のアンケート調査	%	市街地の安心感・快適性の不満度の解消	市民や観光客が地区内を比較し(事前・事後の比較また他地区との比較)厳原城下町地区の醸成度を検証する。	88%	H26	60%	R3
	%	市街地の景観・歴史文化史跡の不満度の解消	市民や観光客が地区内を比較し(事前・事後の比較また他地区との比較)厳原城下町地区の醸成度を検証する。	80%	H26	60%	R3
地区内の人の回遊数	人/日	横町線等を通過する歩行者数	交流拠点としての回遊性の向上を交流センターと川端地区を連動する横町線の歩行者通過人数により検証する。	648人/日	H26	900人/日	R3
博物館の来館者数	人/年	来館者数の増加	観光客の交流拠点として対馬市の歴史文化に触れ、また学ぶことによる交流人口の増加を検証する。	80,600人/年	H26	83,600人/年	R3
博物館周辺の施設利用者の数	人/年	観光情報館ふれあい処つしまの利用者数の増加	博物館を整備することにより、その周辺の公共施設(観光情報館ふれあい処つしま)への波及効果を利用人数により検証する。	13,970人/年	H29	15,000人/年	R3

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p><b>【市民の快適な暮らしの醸成、安心安全】</b>                      ・人口減少・高齢化の時代において、快適で潤いのある市民生活を確保するため身近な生活基盤を整備拡充する。また同様に歴史文化にあふれる居住環境の整備が必要であり、同時に観光ルートの整備の役割をも担うような安定した都市環境を整えて行く必要がある。                      ・安心な街づくりのため、防災・防犯の強化を図り安全で訪れやすい地域づくりを行う。</p>	<p>街路：都市計画道路横町線                      高質空間形成施設：西中須賀通り他5路線(美装化)、照明施設(横町線)、電線類地下埋設施設(横町線)                      高次都市施設：地域交流センター(対馬博物館(仮称)内)                      地域創造支援事業：景観形成助成事業・横町、景観形成助成事業・石塀                      事業活用調査：石塀現況調査、事業効果分析</p>
<p><b>【交流人口の拡大誘導】</b>                      ・市が目指す今後の重要な経済基盤が、産業や自然と密接な繋がりを持ちながら交流人口の拡大を図ることであり、この経済効果を中心市街地で受け止め、地域振興の核となる取り組みが必要である。そのためには、インターネットの活用による対馬の観光や地場産品の情報を発信し、観光客の誘致拡大を積極的に行う。                      ・市街地において、身近に歴史文化を感じられるような遺跡整備を進め、観光資源として長期に渡り保全していける施設整備を図る。</p>	<p>地域創造支援事業：中矢来遺跡整備、景観形成助成事業・横町、景観形成助成事業・石塀                      事業活用調査：石塀現況調査、対馬博物館整備(合築)、歴史民俗資料館解体</p>
<p><b>【交通環境の改善・情報化、地域交通のネットワーク構築】</b>                      ・当地区内の道路修景は歴史的に形成された特徴があり、地区形成のポイントであるが、国道を含めた地区内道路には歩道が無く、交通安全面の問題が多いことから市民や観光客が安全に回遊し、ゆっくりと時間消費が出来るよう面的な意識をもった道づくりが必要である。                      ・地域公共交通網や観光施設を含め回遊ルートの情報システムを構築し、市民・観光客が容易に利用可能な情報配信システムを整備する。</p>	<p>街路：都市計画道路横町線                      高質空間形成施設：西中須賀通り他5路線(美装化)                      地域創造支援事業：景観形成助成事業・石塀                      事業活用調査</p>
<p><b>その他</b></p>	
<p><b>【まちづくりの住民参加】</b>                      ○事業終了後の継続的なまちづくり活動                      ・厳原城下町まちづくり整備委員会を核として、事業期間中に専門家を招聘しながらワークショップを開催し、景観資産ナショナル・トラスト運動へと積み上げていく。                      この取り組みにより、中心市街地ゾーンとしての街並み形成手法や景観協定の締結、また、広範囲な景観計画策定を進め、城下町らしい街並み・商店街形成へと繋がっていくようなファザード改修事業などの活動が展開される。                      ○街並み形成の誘導を計るための方策について                      ・事業期間中に、景観の誘導のための景観計画を策定する予定である。このため、厳原城下町まちづくり整備委員会を中心に景観誘導の在り方を協議・実践しているところである。その後、景観形成(ファサード)事業(提案事業)、石垣・石塀の新設や修復(提案事業)、国道改良事業などを平行実施し、良好な街並み景観を形成していく。また、連担した史跡群(万松院、金石城、清水山城、中矢来)の観光資源への再生、並びに「対馬歴史海道博物館(仮称)」の施設整備を推進していく。                      ○潤いある美しいまちづくりの醸成を図るため市民意識の高揚を図る活動                      ・EM菌の有効活用を促進し、家庭排水による水質悪化を抑制するとともに、中心市街地を流れる河川や海の水質浄化に繋がる運動を支援することで、良質な環境の構築を官民協働により実践していく。                      ○交付期間中の計画の管理について                      ・交付期間中において各種事業を円滑に進め、目標に向けて確実な効果を上げるために、市役所と地域マネージャー・地域住民が協働して、事業成果について評価や事業の進め方の改善等を行うためのモニタリングを実施する。その結果については、市民に情報公開する。</p>	



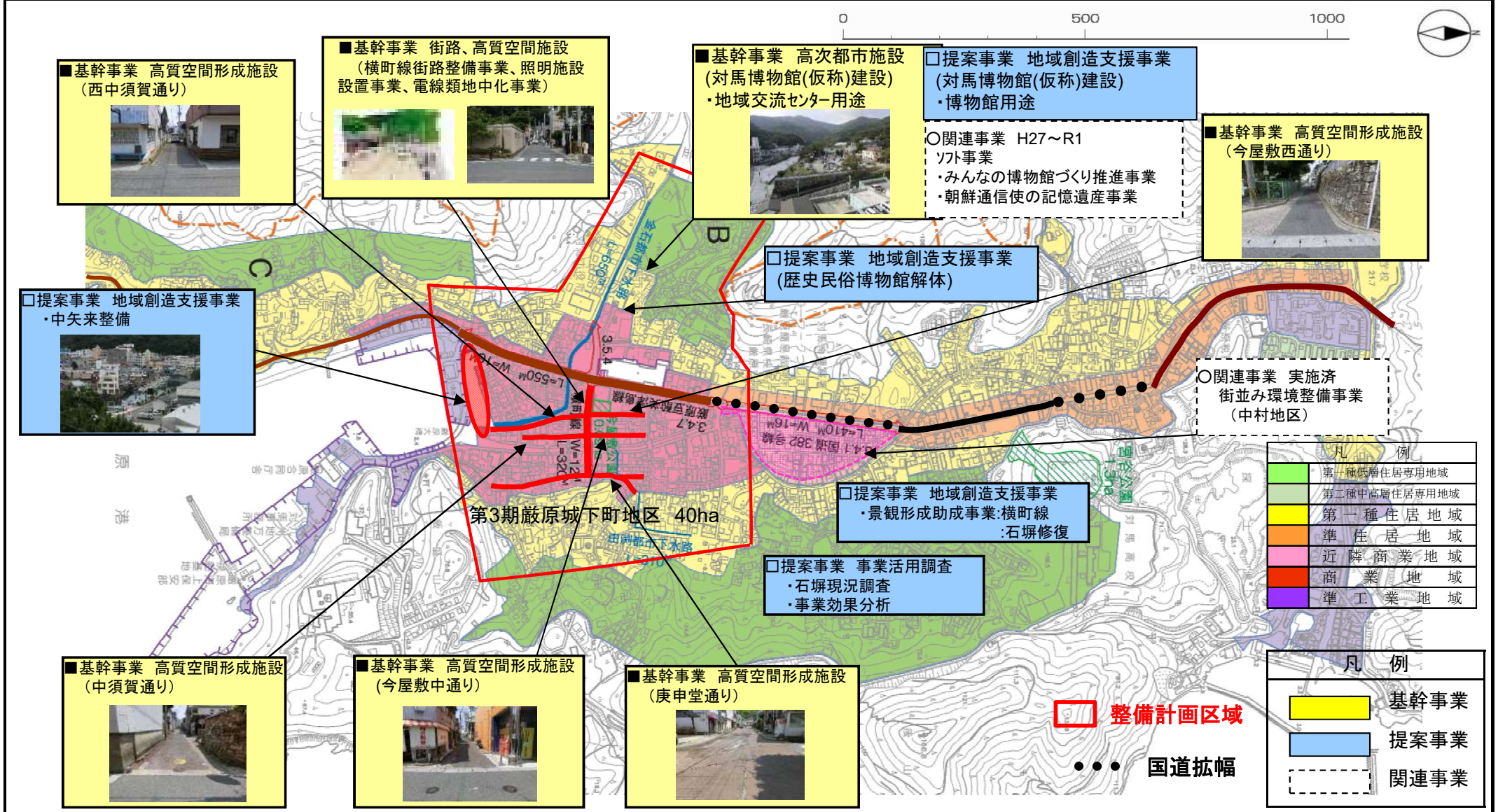


<p>第3期厳原城下町地区(長崎県対馬市)</p>	<p>面積</p>	<p>40 ha</p>	<p>区域</p>	<p>対馬市厳原町 天道茂の一部、中村の一部、田淵の一部、今屋敷の一部、大手橋の一部、 国分の一部、久田道の一部</p>
---------------------------	-----------	--------------	-----------	--



第3期厳原城下町地区(長崎県対馬市) 整備方針概要図(都市再生整備計画事業)

目標	「市民・観光客の交流拠点」としての中心市街地の再生及び安心な街づくり ・市民の快適な暮らしの醸成 ・高質空間を形成し観光客の回遊を誘導する	代表的な指標	安心感・快適性の不満度解消 ( % )	88% (H26年度) → 60% (R3年度)
			景観・歴史文化の史跡の不満足解消 ( % )	80% (H26年度) → 60% (R3年度)
			地区内の回遊数 (人/日)	648人/日 (H26年度) → 900人/日 (R3年度)



# 都市再生整備計画事業事前評価シート

計画の名称: 第3期巖原城下町地区都市再生整備計画 事業主体名: 長崎県対馬市

チェック欄

I. 目標の妥当性	
①都市再生基本方針との適合等	
1) まちづくりの目標が都市再生基本方針と適合している。	○
2) 上位計画等と整合性が確保されている。	○
②地域の課題への対応	
1) 地域の課題を踏まえてまちづくりの目標が設定されている。	○
2) まちづくりの必要性という観点から地区の位置づけが高い	○
II. 計画の効果・効率性	
③目標と事業内容の整合性等	
1) 目標と指標・数値目標の整合性が確保されている。	○
2) 指標・数値目標と事業内容の整合性が確保されている。	○
3) 目標及び事業内容と計画区域との整合性が確保されている。	○
4) 指標・数値目標が市民にとって分かりやすいものとなっている。	○
5) 地域資源の活用はハードとソフトの連携等を図る計画である。	○
④事業の効果	
1) 十分な事業効果が確認されている。	○
2) 事業連携等による相乗効果・波及効果が得られるものとなっている。	○
III. 計画の実現可能性	
⑤地元の熱意	
1) まちづくりに向けた機運がある。	○
2) 住民・民間事業者等と協力して計画を策定している。	○
3) 継続的なまちづくりの展開が見込まれる。	○
⑥円滑な事業執行の環境	
1) 計画の具体性など、事業の熟度が高い。	○
2) 交付期間中の計画管理(モニタリング)を実施する予定である。	○
3) 計画について住民等との間で合意が形成されている。	○